

仲間と協力して、課題解決に向けて進んで 取り組むことができる子どもをめざして 福山市立加茂小学校

全児童生徒数	629 名 (男子 305 名 女子 324 名)
全クラス数	30 クラス(特別支援級 11 クラス)
TEL	(084) 972-2068

1 課題と目的

本学級の児童は、「ラグビー」を知っているが、実際に「タグラグビー」のルールを知らなかったり、ラグビーボールの形から投げる・受けることやパスの困難さをイメージしたりしていた。また、単元を進めていくうちに、技能の差が大きく、ボールを受け取っても前に走り出すことができない、相手にタグを取られないように後ずさりをしてしまうなどの課題が見られたため、自己やチームの課題を見つけ解決するために副読本「わたしたちの体育」を活用した。

「わたしたちの体育」を活用することで、以上のような課題の解決を図り、また本県体育科の研究主題「深い学びを実現する体育科の授業」を実践するため、本単元を設定した。

2 主な取組の内容

(1) ゲーム理解のための副読本の活用

本単元の見通しをもつことができるように「わたしたちの体育」のP.16でルールを把握し、挿絵を使い、同じように実際にゆっくりと動くことでゲーム理解を図った。

(2) 課題と方法を認識するための副読本の活用

P.18「作戦の工夫の例」を活用することで、その作戦を利用したり、新たに自分たちで作戦を考えたりして、「今日はこの作戦を試そう」と主体的に課題に取り組むための手立てとした。

(3) 児童の振り返りと授業評価としての副読本の活用

単元を通してP.19「学習のあしあと」を活用し、児童自身が取り組んだ作戦やゲームを通しての技術の成功や失敗を振り返らせた。授業者も授業後半にその振り返りを見取り、児童の良い動きや作戦などを授業中に撮影し、その動画を見ながら児童と共有した。

3 取組で工夫したところ

(1) 誰もが慣れ親しむことができるための「教材・教具の工夫」

運動が苦手な児童でもタグを取りやすくなるように、面積の広い布を使用した。また、準備運動に「タグ取り鬼」を取り入れることで、効率的に主運動につなげることができ、多くの児童がゲームの中でタグを取ることができた。

(2) 作戦の選択方法の工夫を通じた多様なかわり

作戦を選択する際に、「攻撃」と「守り」について考えさせた。このことにより、それぞれの作戦が双方に生かされるとともに、チームでの作戦タイムもタグラグビーの本質に迫るものとなり、深い学びにつながった。

(3) ICT 機器や視覚化教材等を用いた多様なかわり

単元を通して「学習のあしあと」から児童の振り返りを見取るとともに、授業の導入時に ICT 機器を活用して前時の活動を振り返り、本時の課題の明確化を図った。このことにより、児童は本時の課題をより意識した活動となった。

4 成果と今後の課題

「わたしたちの体育」を活用した成果として次のような児童の姿があった。

- ・ 「作戦の工夫の例」をもとにチームの作戦を選択し、ボールを持たない人の動きも考え、主体的に動くとする姿。
- ・ 挿絵から容易にゲーム理解や作戦のイメージを立てたことを実感している姿。

「わたしたちの体育」を活用した実践は、児童自らが学びを広げ、学びを実感しているということを強く感じることができた。

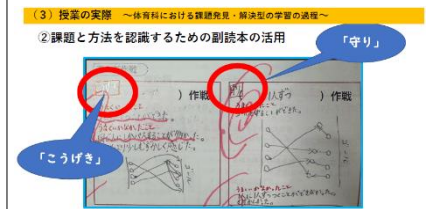
今後は、他領域においても「わたしたちの体育」の効果的な活用方法を模索していきたい。



準備運動に取り入れた「タグと
り鬼」の様子



副読本の「作戦の工夫の例」を
活用した、チームでの作戦タイム
の様子



実際に児童が記述した、選んだ
作戦